

やまびこ

(公社)愛媛県栄養士会医療事業部編集

副 会 長 挨 拶

(公社)愛媛県栄養士会医療事業部
副部長 藤原 真紀子

平成 26 年度 2 回目のやまびこ発行にあたりご挨拶申し上げます。やまびこの発行が紙面での配布を終了し、ホームページでの掲載になり、はや 6 号目となります。またこの間に、愛媛県栄養士会のホームページもリニューアルされ、以前より使いやすくなったと考えております。またホームページでの掲載は、過去の掲載物がいつでも確認でき、活用できることが最大のメリットです。うまく活用できるように、今後とも最新情報や、様々な資料を随時掲載させていただく予定です。

今年度から新たな研修制度が開始されました。基本研修は管理栄養士・栄養士として備えておくべきスキルの研修です。実務研修は専門分野に特化した知識・技術の研修です。専門分野（職域）が主体となって実施しており、今年度から医療事業部単独の研修会も新たな研修制度に組み込まれました。講義だけではなく実習も組み込まれており、内容も充実していると考えております。

また 2015 年 4 月より日本人の食事摂取基準が改定されます。日本人の食事摂取基準は、健康増進法（平成 14 年法律第 103 号）第 30 条の 2 に基づき、国民の健康の保持・増進を図る上で摂取することが望ましいエネルギー及び栄養素の量の基準を厚生労働大臣が 5 年ごとに定めるものです。策定目的に、生活習慣病の発症予防とともに「重症化予防」が加えられました。エネルギーについて、指標に「体格（BMI）」が採用されています。生活習慣病の予防を目的としナトリウム（食塩相当量）について、高血圧予防の観点から、男性 8.0 g / 日未満、女性 7.0 g / 日未満と値を低めに変更されています。5 年ごとの改定はあっという間に次の改定になるような気がします。栄養士の業務の基準です。新たな食事摂取基準の研修会も 3 月に予定されています。ぜひご参加ください。





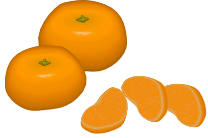
第1回病院・医療関連職域管理栄養士・栄養士育成のための 中国・四国地区リーダー育成研修会の報告

(公社)愛媛県栄養士会医療事業部部長 利光 久美子

1. 日 時 平成26年8月30日(土) 10:30~15:30
2. 場 所 岡山大学鹿田キャンパス(医学部) Jホール
3. 出席者 各県 医療事業部会長他 (愛媛県より3名参加)
4. 議題
 - (1) 第1・2回企画運営委員会報告
日本栄養士会事務所 新橋移転について報告
第28回臨床栄養セミナー(H26.7.26)の開催報告 (120名参加)
平成26年医療事業部スキルアップセミナー H26.11.15~16開催予定
第34回食事療法学会 H27.3.28~29開催予定
生涯教育認定単位について変更;管理栄養士初任者臨床研修を実務者30単位に振り替えることが可能となった。
 - (2) 医療事業部上半期統一議題について
医療事業部の26年度スローガン
病院から在宅までシームレスな栄養管理・栄養指導を目指そう
 - 1) 生涯教育実務研修の各県実施状況
 - ・ 年間実施予定研修。総研修単位数は、各県においてばらつき大きく、6~25単位であった。
 - ・ 実施可能な環境づくりに向けての検討。平成26年に多くの県が生涯教育導入済み
 - 2) 組織強化 会員増に向けた取り組み状況
 - ・ 会員が望む組織とは会の運営目的、実績、会員への貢献が見える栄養士会の運営が必要
 - ・ 会員への情報提供をホームページ、市民公開講座などを実施について提案があった。
 - ・ 医療の質の向上も含め受託会社さんへの研修会の参加依頼も必要である。
 - 3) 医療分野ビジョンについて
 - ・ 臨床における管理栄養士将来構想を実現するための具体的方法の検討。
 - ・ 医療分野を率先する栄養士自らが、生涯教育を履修し、資格認定を取得するなど、人にさせる体制から自らが手本を示すこと。
 - ・ 手本となれる方々が医療分野を率いること
 - ・ 学会や他団体と連携を図る組織体制が必須などの提案があった。
 - (3) その他
 - ・ 入院時食事療養費自己負担問題について
自己負担により、患者の要望度が高くなり、医療の一貫としての食事療養が行えない可能性がある。
 - ・ 病棟配置については、他職種に広がりを見せており、チーム医療を実践する上で早期に実現が望まれる。
 - ・ 業務加算については、全てのチーム医療に必須職種として認めていただけることを希望する。
 - ・ 病棟配置は、24時間常駐の意味合いを含んでおり、名称の検討が必要である。
 - ・ 来期の調査において、学会入会等の調査を実施する。
 - ・ 食事、薬、血圧、血糖等を含む総合手帳を作成する。

平成27年1月24日の次回中四国リーダー会に愛媛県より提案する

参 加 報 告



愛媛県糖尿病協会総会および講演会における展示に参加して

旭川荘南愛媛病院 都能 綾子

平成 26 年 6 月 29 日（日）に愛媛県医師会館で開催された、愛媛県糖尿病協会総会および講演会の展示に、医療事業部の役員として参加させて頂きました。医療事業部としての役割は、総会および講演会に参加される方への「糖尿病の治療および予防に関する資料」の説明・配付です。この「糖尿病の治療および予防に関する資料」は、毎年、数名の担当役員が参加者のニーズに合わせて準備しますが、この会は一般市民に加えて医療職の方も多く参加するため、資料選びには難渋しています。日常の栄養指導においても資料は準備しますが、医療職の方を頭に浮かべて準備することはありません。当日は、自分たちが準備した資料をもとに多くの方々と話しますが、医療職の方からは資料に対する積極的な意見も聞こえてきます。このようなやりとりは、日常業務の中では感じられない貴重な経験だと感じます。

今年度聞こえてきた貴重な意見を、来年度の資料作りに生かしたいと思います。

今年度、愛媛県糖尿病協会総会および講演会に参加させて頂き、感謝申し上げます。



ブルーランドサマーキャンプを終えて

市立大洲病院 松下 達則

このたび、愛媛ブルーランドサマーキャンプに参加することを決めてから、普段は小児 I 型糖尿病に接することがなく緊張と不安がありました。しかし事前説明会で他職種の方々のこのサマーキャンプにかける意気込みを聞いていくうちその心配はなくなりましたのでほっとしていました。

今回、自分では目標を「コミュニケーションをとり安全で楽しいキャンプにする」と大きくアバウトに考えて参加していました。

残念ながら台風の接近もあり今回は一泊二日と短い行程となっていました。この短い活動の中での学びとしてキャンパーとの接し方・関わり方を特に「距離感」の難しさを痛感しました。自分はこのキャンプでの役割は食品交換表を使用したカロリー計算でしたが、つついキャンパーに食品交換表を理解してもらいたい気持ちが先行し、あまりキャンパーの中に溶け込めなかったことを後悔しています。

そのため来年のサマーキャンプまでには「コミュニケーションをとりながらいい距離感を保つことができるように！」と具体的な新たな目標ができました。大きくアバウトに考えていた自分の目標をより具体化することができ来年の夏が楽しみです。

愛媛県糖尿病推進協議会 糖尿病市民公開講座に参加して

(公社) 愛媛県栄養士会医療事業部部長 利光 久美子

愛媛県糖尿病推進協議会主催 糖尿病市民公開講座が、2014年11月9日(日)に南海放送本町会館で開催されました。愛媛県栄養士会として医療事業部が担当し栄養相談の協力を行いました。あいにくの雨でしたが、参加者は200名強と多く、講演(別表)、血糖検査、血圧測定、薬の相談、フットケアと共に栄養相談を行いました。私達が行った栄養相談コーナーでは48名と非常に多くの方が糖尿病に関する食事療法に疑問と悩みをもって相談にいられました。相談者は2型糖尿病患者や家族のみならず、肝疾患やステロイド服用による2次性糖尿病の方からの相談もみられました。また、主な相談内容は体重コントロールや、食欲コントロールに対する対応でしたが、血糖降下薬服用と食事療法により繰り返し低血糖が起きるようになったことなど、食事療法のみでは対応しえない主治医に相談すべき治療内容の相談もありました。

参加者のみならず私達にとっても有意義な時間であり、今後も公益社団法人 愛媛県栄養士会として、多くの市民の方々への健康推進に努めて参りたいと思います。

糖尿病市民公開講座 内容

開会の挨拶	近藤 しおり先生	松山赤十字病院 内科医師
講演	糖尿病とは	大沼 裕 先生
	糖尿病食は長寿食	永井 祥子 先生
	運動療法の実際、サルコペニア予防体操	田中 寛高 先生
	糖尿病の検査について	小林 知子 先生
	糖尿病の薬物療法について	阿部 紀史 先生
質問タイム	司会	宮岡 弘明 先生
	Q&A	新谷 哲司 先生
		吉田 直彦 先生
		島村 一郎 先生
		山内 一彦 先生
閉会の挨拶	大澤 春彦 先生	

糖尿病市民公開講座 風景



栄養相談



講演;「糖尿病は長寿食」
愛媛大学医学部附属病院 永井祥子 先生

業 務 紹 介

当院の糖尿病透析予防指導について

社会医療法人同心会西条中央病院 神原 淑恵

当院の糖尿病透析予防指導管理算定は2013年4月から実施しています。1年以上経過した現在、患者総数115名、2013年度指導総数278件です。スタッフは専任医師1名、看護師3名、管理栄養士3名が関わっています。算定実施に当たり、まず施設基準が充足可能であることを確認し、糖尿病透析予防指導管理料を算定した患者さんの状態変化を厚生局に報告できるよう指導報告書のフォーマットを当院用に作成しました。指導の流れのシミュレーションを行い、各スタッフの役割をきめました。患者抽出（担当＝医師）→糖尿病透析予防の指導目的を患者さんに説明（担当＝看護師）→受診当日指導実施、報告（担当＝医師・看護師・管理栄養士）する流れを決定しました。電子カルテ導入と同時期に糖尿病透析予防指導開始であったため、電子カルテの予約枠を活用し、栄養指導は2件平行して実施できるようにしています。指導内容はチーム会を何度も行い、各専門職の指導内容のすり合わせ、統一した資料作成を行いました。工夫している点は栄養指導依頼書には外来指導と識別できるよう「透析予防指導〇〇期」とコメント入力し、病期表示した点。患者さんによっては指導ペースが異なるため、指導予約を入れる時期を電子カルテ上の掲示板に記載し、個人別に合わせた予約を入れています。患者情報は定期的にチーム会を行い症例報告、カンファレンスを行っています。今後もチーム間でカンファレンスを継続し、効果が現れる指導を実施していきます。



糖尿病透析予防管理料

H24年4月より350点開始

算定要件

- ・Hb A1cが6.5%（NGSP）以上、または内服薬やインスリン製剤を使用している外来糖尿病患者であって糖尿病腎症2期以上の患者（透析療法を行っている患者を除く）に対し、糖尿予防診療チームが透析予防に係る指導管理を行った場合に算定

施設基準

- ①透析予防診療チーム（専任の医師、看護師また保健師、管理栄養士）
- ②糖尿病教室等を実施
- ③1年間に当該当指導料を算定した患者の人数、変化等について報告

在宅患者訪問褥瘡管理指導を実施して

医療法人専心会 西条市立周桑病院 日野恵子

今年度より新設された「在宅患者訪問褥瘡管理指導」を当院の訪問診療、訪問看護を行っている患者さん1名において実施したので、概要を報告します。

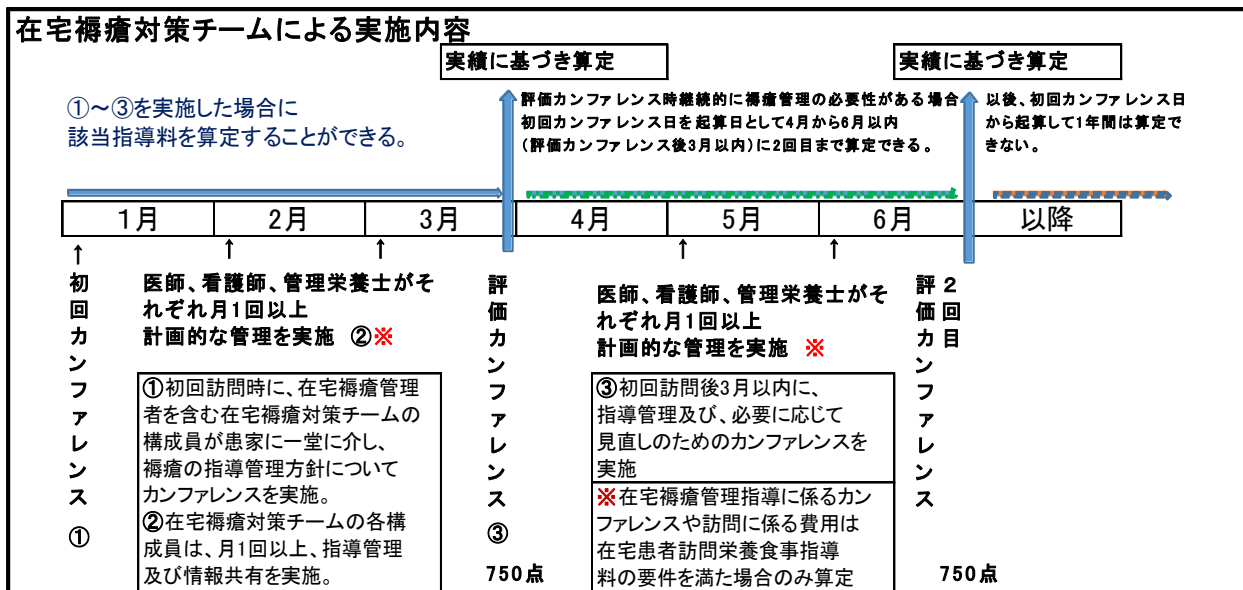
胃瘻より経腸栄養を在宅で実施している患者さんが、足の指の関節に DESIGN 分類 d2 以上の褥瘡が発生したのを訪問看護師が確認しました。患者さんやご家族も褥瘡治癒についての依頼があり、医師、訪問看護師、管理栄養士が患者宅に訪問、褥瘡の指導管理方針について、初回カンファレンスを行いました。管理栄養士は身長、体重や活動を聞き取り、TC、TSFの計測より、推定の栄養必要量を算出。患者さんは経腸栄養でしたので、摂取栄養量はすぐに確認できましたが、なんとか必要量を満たしていました。初回は薬などの処置で栄養量については体重増加を考慮し、現行の栄養量投与を患者さん、家族に説明しました。

2回目の訪問時には褥瘡は改善傾向でしたが、3回目の訪問時に褥瘡の改善が遅延状態のため、経腸栄養量のアップを提案、実施して頂きました。その後、2か月程で治癒を確認し、7回目の訪問で、治癒状態の維持を確認と体重のかなり増加を認めたため、経腸栄養量の減量を提案しました。以下の図1のように6か月で7回の訪問管理指導により、2回の診療報酬となります。今回の患者さん宅は近距離にあり、移動時間も短く時間的に毎月の訪問は、在宅患者訪問栄養食事指導料の要件を満たさない場合であっても、大きな負担にはなりません。

しかし、遠距離で食事内容も細かく指導していく場合、医師、看護師等と同行し、短時間での実施はスキルを要すると思います。今後も対象の患者さんがいらっしゃれば効果のある褥瘡管理のチーム医療を実施して行きます。

褥瘡状態判定	Depth	深さ	d0: なし d1: 持続する発疹 d2: 真皮までの損傷
	Exudate	浸出液	
	Size	大きさ(cm)	
	Inflammation/Infection	炎症/感染	
	Granulation tissue	肉芽組織	
	Necrotic tissue	壊死組織	
	Pocket	ポケット(cm)	

(図1)



研 修 会 案 内

1. 平成 26 年度（公社）愛媛県栄養士会生涯教育研修会（医療事業部担当）
日 時：平成 27 年 1 月 24 日（土）
会 場：子規記念博物館
内 容： 9:30～11:00 薬の知識を栄養管理に活かそう
日本栄養士会医療事業部企画運営副委員長 西村 一弘先生
11:10～12:40 CKD の栄養食事指導
日本栄養士会医療事業部企画運営副委員長 石川 祐一先生
13:30～16:40 ワールドカフェの手法を用いた CKD の症例検討
から栄養管理まで
日本栄養士会医療事業部企画運営副委員長 渡辺 啓子先生
日本栄養士会医療事業部企画運営副委員長 中川 幸恵先生
2. 第 18 回日本病態栄養学会年次学術集会
日 時：平成 27 年 1 月 10 日（土）～11 日（日）
会 場：国立京都国際会館
3. 第 30 回日本静脈経腸栄養学会学術集会
日 時：平成 27 年 2 月 12 日（木）～13 日（金）
会 場：神戸国際会議場、神戸国際展示場、神戸ポートピアホテル
テーマ：臨床栄養の最前線
4. 第 34 回食事療法学会
日 時：平成 27 年 3 月 28 日（土）～29 日（日）
会 場：仙台国際センター
テーマ：ありがとう 伊達の国から新たな一歩



【編集後記】

今年も思わぬ自然災害が多く発生し、自然の脅威がいつ起こるかわらないことを実感させられました。また、エボラ出血熱などの新たな感染症や日本で撲滅した感染症に感染した人が確認されるなど、病院に勤務する栄養士として、災害や感染対策のさらなる対応について考える必要性を感じています。

今年度から始まった生涯教育に参加した感想なども含め、今後の「やまびこ」について皆様のご意見、情報等がありましたら、担当者までご連絡ください。最後に、記事にご協力していただいた会員の皆様ありがとうございます。

[編集責任者] 愛媛県立今治病院 藤原 眞紀子
[編集担当] 医療法人専心会西条市立周桑病院 日野 恵子
医療法人団仲会奥島病院 石田 美津子
国立病院機構愛媛医療センター 永井 美保
(E-mail mnagai@ehime-nh.go.jp)